

## 会議録（要点記録）

会議名称	令和5年度 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和5年5月22日（月） 14:00～14:58		
開催場所	小金井市役所本町暫定庁舎 第二会議室		
出席者等	委員：小高会長、牧野副会長、有泉委員、中村委員、坂上委員、執行委員、小椋委員、鈴木委員、山岡委員、石川委員、杉山委員、藤原委員、大澤委員 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 委嘱状の交付</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 委員及び事務局職員の紹介</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 正副会長の互選</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) 協議事項</p> <p style="margin-left: 40px;">今年度の目標設定について</p> <p style="margin-left: 40px;">小金井市内の社会資源について</p> <p style="margin-left: 40px;">事業所へのアンケート調査について</p> <p style="margin-left: 40px;">その他</p> <p>3 次回の開催日について</p> <p>4 閉会</p>		
会議結果	<p>◎事務局</p> <p>今回は第2期目の最初の会議のため、会長が決まるまでの間進行を務める。</p> <p>配付物の確認。</p> <p>1点目は、本日の次第、2点目、資料1、小金井市精神保健福祉連絡協議会委員名簿、3点目、資料2、東京都市部障害福祉サービス提供事業所の現況について。</p> <p>それでは、次第2の（1）委嘱状の交付に移る。本来は市長の白井より皆様に直接委嘱状を交付させていただくところだが、他の公務により、交付は省略し机上に配付させていただいた。</p> <p>なお、市長の白井については、他の公務が終わり次第、こちらに向かう予定となっており、会議中に間に合うようであれば到着した際に挨拶させていただく。</p> <p>次に、委員及び事務局職員の紹介。名簿順に座席を配置しますので、1号委員から、反時計回りで自己紹介をお願いします。</p> <p>（1号委員から順に挨拶）</p> <p>◎事務局 続いて事務局職員の紹介。</p>		

次に、次第の議題2、(3) 正副会長の互選に移る。

本協議会の会長及び副会長は、小金井市精神保健福祉連絡協議会設置要綱第5条第1項の規定により、委員の互選により選任するとされている。

まず、会長につきまして、どなたか立候補、推薦等ございましたら挙手を。

◎委員 会長には、昨年度まで第1期の会長をされていた小高委員を推薦いたします。

◎事務局 ただいま委員より、小高委員を会長に推薦するとの御意見がございました。これに異議はないか。

(「異議なし」の声あり)

◎事務局 異議ないようなので、会長の職は小高委員にお願いする。

早速ですが、会長より御挨拶を。

◎会長 大学で教員をされており、もう20年近く前になるが、小平市にある国立精神神経医療研究センターの精神保健研究所で研究員として仕事をしていた際に、病院で社会復帰病棟の長期在院の患者の退院支援とか、地域の再定住の手伝いをソーシャルワーカーとしてさせていただいた時期もある。

現在は、自殺予防、自殺対策の研究、メンタルヘルスの研究を中心にしている。

◎事務局 それでは、ここから先の進行は会長にお願いする。

◎会長 それではここから先、私のほうで、次に副会長の選任を行いたいと思うが、どなたか立候補、推薦等あれば挙手をお願いしたい。

◎委員 副会長には昨年度まで、第1期の副会長をされていた第4号委員の牧野委員を推薦する。

◎会長 ただいま牧野委員の副会長への御推薦の意見あったが、異議はあるか。

(「異議なし」の声あり)

◎会長 牧野委員を副会長に選任する。

では、副会長に選任された牧野委員より御挨拶をお願いしたい。

◎委員 お役に立つことができましたらということで、会長、先生の御指導でやっていきたい。

◎会長 次に、今年度の目標設定について議題とするので、事務局より説明をお願いしたい。

◎事務局 本協議会は、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するための関係機関による協議の場と位置づけられているところであるが、第6期小金井市障害福祉計画において、協議の場において目標の設定及びその評価を毎年1回実施することを掲げている。

また同計画では、精神障害者の地域移行支援の利用者数について、

令和5年度は3人とすることを掲げている。これに基づき、長期入院者等の退院促進を進めることにより、地域移行支援の利用者数を3人とすることを本協議会における今年度の目標にしたいというのが事務局の提案である。なお昨年度は、地域移行支援の利用者数を2人と目標設定し、2月に開催した前回の最後の協議会において、3人が地域に移行できたと報告し、目標達成と評価されたところ、その後、年度内にもう1人地域に移行することができ、最終的には4人となったことを報告する。

◎会長 本協議会における令和5年度の目標を、地域移行支援の利用者数3人ということで、何か意見、質問等いかがか。

(「異議なし」の声あり)

◎会長 地域移行支援の利用者数3人を目標とする。次に、次第(4)の2番目、小金井市内の社会資源についてというところを議題とする。事務局より説明を。

◎事務局 資料2、東京都市部障害福祉サービス提供事業所の現況についてというA3の資料を参照されたい。

こちらは、ReMHRAD、地域精神保健医療福祉社会資源分析データベースというのがあり、地域包括ケアのための資源の状況という資料から、東京都の市部の部分の資料を一部抜粋したもの。令和2年、2020年現在の事業所数である。手帳所持者数、その表の右にある数は、東京都福祉保健局精神保健医療課から発表されている令和3年度、2021年現在の数字、発行された交付数である。

昨年度の協議会で、小金井市内のグループホームについて数などを提示した。ほかにも小金井市内にある精神障害者対象の社会福祉資源の状況について、ショートステイが不足しているといった話題も少し出たと思うので、今回、精神障害のある方が利用することが多いと考えられる障害福祉サービスを中心に、東京都内の市部の情報を抜粋して一覧に上げてある。小金井市は真ん中より少し上に色がけしてある部分。また、小金井市以外に、手帳保持者数、手帳交付数の近い市に幾つか参考まで色をつけた。

資料2の表面に実数、裏面が手帳所持者数、手帳交付数百人当たりの事業所数を示した。色かけについては表面と同様となっている。

こちら、ReMHRADの情報をあくまでも使用していることと、2020年、2021年のデータを使用しているのも、実際の数字、現場の数字、最新の数字とは少し相違がある部分もある。精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築というところで、小金井市及び東京都市部の近隣市等の状況を確認する資料として今回提示している。

◎会長 今事務局から説明があったが、資料を参考に他市と比較した上での、小金井市としての強みとか足りない状況であるとか、これか

らこれら資源をどう活用していくべきかとか、何かこの表から、表以外でも構わないが、御意見等あればお聞かせいただければと思う。

(意見なし)

恐らく、特に他市と大きく変わる状況ではないというような感じかなというふうには思う。何か意見とか追加情報が必要だというような声があれば、ぜひ教えてほしい。

(意見なし)

では、本件についてはよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

◎会長 続いて協議事項の3番目になりますが、事業所のアンケート調査につきまして議題とさせていただきます。

◎事務局 第1期の協議会におきましては、精神科の医療機関及びその入院患者に対し地域移行に関するアンケート調査を実施し、それを参考に、長期入院患者の退院促進に取り組んできたところだが、今回は、受け入れる側、地域生活を支援する側の声を聞くことにより、地域生活における課題の解決につなげていけないか。

具体的には、相談支援事業所、グループホーム、訪問看護ステーションなど、当事者と直接関わるような事業者に対してアンケート調査を行い、その意見を参考にしたいというもので、進め方としては、本日第1回の協議会で調査票の設問内容について協議いただき、それを踏まえて事務局で調査票の案を作成して、11月に開催予定の第2回の協議会で調査票を決定、その後、調査を実施し、その意見を集約した結果を2月に開催予定の第3回協議会で報告し、困難ケースの検討や地域包括ケアシステムの構築に係る協議に活用していきたいと考えている。

したがって本日の協議で、アンケートの調査内容について、例えばこれまでに対応した事例で工夫して成功したこと、地域生活を支援する中で困難となっていることなど、今後協議会で参考にするにあたり現場の事業所からどのような意見をもらいたいかという観点から、質問の内容についての意見をいただきたい。

◎会長 今回、現場の声を聞くためのアンケート調査ということで、今後の協議の材料にしていこうということ。私からもいろいろ本件に関して提案しているが、この地域包括ケア、今まで、去年までは割と退院促進というところに重きを置いていたが、本来、この協議会のテーマが地域包括ケアシステムをどう構築していくかということであると思う。

昨年度まで割と議論に上っていたところでも、その社会資源そのものはそう大きく不足しているわけではないと。当然、例えばもっとグループホームの数が欲しいとか、あるいは重複障害のある方にも対応するようなサービスが必要ではないかとか、いろいろ意見をもらって

はいるが、基本的にはすごく不足しているわけではない。そういったときに、どのようにつながりをつくっていくか、いわゆるシステムを構築していくかというところで、今回、委員の皆様いろいろな貴重な御意見を頂戴しているところだが、この協議会に参加できない方も含め、もっと幅広く現場の声を拾っていくのはどうだろうかということで提案している。

例えば、本委員会には参加されていない事業所の方とか専門職の方というところを中心に、全関係事業所にアンケートをさせていただき、そこで生の声を吸い上げていくというのはどうだろうかという提案の段階で、正直なところ、それ以上何も決まっていなかったところではある。

ただ今年度また、今事務局から説明したとおり、次の第2回の協議会で、少し形にというか、事務局のほうで検討して形になった質問項目を皆様に御覧いただいて御協議いただけるような、そういったプロセスを経ていけたらなと思っている。

なので、今日は何もないところでのことになってしまうが、まず、何か御質問等をいただければ。それから今日、本年度第1回目ということですので、このアンケート調査につきまして全員に発言してもらいたい。あくまでも、こういう実施をしたらどうかという話や、もっとこういう調査のほうがいいのではないかとか、こういったことも今年度の事業というか協議会の役割なのではないかという意見がございましたら、併せてお願いできれば。

でも、突然振られても困るかなとも思うので、まず今の段階で何か質問とか全体的にいかがか。

(発言なし)

たたき台を作る参考にしたいので、皆様から忌憚のない意見を頂戴できればと思う。

◎委員 今回、地域生活をスムーズに移行できるように受入れ側体制確認ということであれば、漠然としているが、やっぱりどのような形で最初、例えば病院と地域側が情報共有できたら、スムーズにその方の理解が進み、受入れの準備ができるかと。恐らく、突然こう受入れの話といっても、受け入れるまでにかなり病院との話合いとか本人との顔合わせとか段階を踏んでこそ、移行についての壁が少なくできるのではないかなと思うので、その事前の情報というのが重要かと思う。

◎会長 病院と地域との事前の情報共有ですね。特にその受入れをするまでのプロセスも含めてというところか。

◎委員 質問だが、小金井の部会はあるか。

◎事務局 ある。

◎委員 多分、その部会のほうをもっと活用して、自分はほかの市で一部だけ参加して、そこは相談部会で、困難ケースとかが全部上がっ

てきてどうしたらいいかみたいな感じで、それで、我々も情報共有できるし、それにフィードバックして、こういう感じで介入していったほうがいいのではないかとか、いろんなことをざっくばらんに地域の人に聞いて、そこからまた何が問題抽出なのかというのを把握していくというのはすごく大事。特に地域に返しても、結構なかなかうまくいかない事例が多い。地域では第一線の方のアンケートが大事。結局いろいろトラブルが起こるのが地域支援者とである。本人と地域支援者とのトラブルで、また再入院することや、帰るのが嫌だとかになる。そのようにうまくいかないことがあって、そういうのも結構、保健所とかと相談とか、いろんなことをして、なるべく地域に返すという考えで、もう1回仕切り直そうとかということもやっている。

多摩総はアウトリーチ事業があり、私も昔は所属をしていた。何が発端だったのかとか、そういうことまでしっかりともう一度精査をして、地域に返すという形をとっている。やっぱり地域移行では情報の共有、特に本当に現場の訪看の人たちの情報が上がってくると必然的に何が問題なのかというのは見えてくるので、その辺を濃厚にやっていけばいいのかなと思う。

◎会長 部会の共有というのはまた別の意見かなと思ったので、それはぜひまた。以前、少し部会で話し合われた内容をこちらでも共有したけれども、もう少し活発にその辺りの交流ができるといいのではないかという意見と理解した。また、その地域の訪問看護の方からの生の声を拾い上げていくことに役立つのではないかという意見ですね。

◎委員 あまり一般的なことを何も考えていない。結局、私どもとしては個々のケースでそれぞれ具体的に考えていきたいと思う。

◎委員 去年、日本の精神医療を、今、何かあったときにマスコミがわっと騒いで、一般的にはこうだという話があまりにも世の中に知られていない。みんな真面目なところは真面目にやっているのだから。

そうしたら、ちょうどあの事件が起こり、もう早速、先生のところはどうですか、テレビが出た途端に電話がかかってくる、おたくは大丈夫ですか、うちの人（入院患者）は今殴られてないですかとか。いろいろ聞いたら幾つか反応があって。ある病院では、患者がお風呂に入ると何か潜る人がいる。何かにこだわりのある人。そのたびに引き上げているのだけど、そのときたまたま引き上げたら歯がぼろっと欠けたのか入れ歯が落ちたのかそのようなことがあった。患者はテレビ見ているから、早速110番した人がいた。患者が110番をかけるのはしょっちゅうあることで、もうこれは警官もよく分かっている。通信の自由で電話がかけられるから。大体110番の担当は、看護師とよく相談して、と言うのですが、その後、普通は帰ってくるが、その件は都庁まで報告が行ったそう。東京都も何件か既にそういう影響があるみたいである。非常に真面目にやっているところは

いに困っている。

本来ならば早く精神科に入れてあげたら早く退院できるような人が、ますますこじらせる印象があった。家族もまさか精神科にうちのおじいさん、お父さんを入れるなんてとんでもない。どうしても出ていっちゃうでしょうがない、どうしようかと思っているところにあいう（ニュース）が流れますと、大分いろいろと話はこじれるだろうなと思う。

少なくとも全うにやっているところは全うにやっていて、むしろ、患者さんを殴るのは、それは刑法で処罰すればいい話で、それはもう犯罪ですけれども。普通、殴るのではなくて殴られるほうが我々ですからね。それをいかに大ごとにしなくて、患者さんもけがさせないし、我々もけがしないようにc v p p p（包括的暴力防止プログラム）とかやっている。それから、日本精神科看護技術協会、これがモヤモヤメモとかいって、精神科の場合、倫理的に疑問があると考えてもやもやすることが多々あるでしょうと、それをみんなで話し合おうと、そういう活動をナースたちがやっている。でもそういうことは絶対テレビではやってくれない。

◎会長 今、お話を聞き、やはりお互いに安全にというところで、もしかすると地域の方からもその安全性というところとか、何か困り事の事例とか出してもらえるといいと思った。あと、精神科につながらない方の話、何か地域のほうから情報が上がってくるということもあるのではないかなと、今、お話を聞きながら考えた。

◎事務局 ここで市長の白井が到着しましたので、皆様に御挨拶させていただきます。

◎市長 皆様、こんにちは。市長の白井でございます。

他の公務がございまして、会議の途中、お時間をいただくような形になって大変申し訳ございません。また、御挨拶だけさせていただいて退席させていただく運びとなりますので、ばたばたして大変申し訳ございませんが、御容赦ください。

まず、委員の皆様におかれましては、小金井市の精神保健福祉連絡協議会の委員を引き受けていただきまして、誠にありがとうございます。また、本日御多忙の中、会議のために御参集いただき感謝しております。

国のほうで平成28年、これからの精神保健医療福祉の在り方に関する検討会、この平成29年の報告書においては、精神障害のあるなし、または程度に関わらず、誰もが自分らしく暮らしていけるような社会の実現ということで、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指すということが、しっかりと新しい政策理念として明確にされたということで、それに沿って国のほうで推進事業というのが創設され、本協議会は、その推進事業に基づきまして、精神障害

者、当事者の皆さんのニーズ、地域の課題、こういったものをしっかりと共有して、地域包括ケアシステムの構築に資する取組を実施するために、保健・医療・福祉の関係者の皆さんにお集まりいただいて御協議いただく場として設置した協議会でございます。

小金井市における関係者の皆さんによる重層的な連携の支援の体制をしっかりとつくって、地域包括ケアシステムの構築を目指していくために、皆さんから御意見をいただいて、市の施策に反映できるように取り組みたいと思っておりますので、ぜひとも皆さんのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

簡単ですが、以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは失礼いたします。

◎会長 それでは次の委員。

◎委員 このアンケート調査で、現場で困っていることって結構あると思う。ここに小金井市訪問看護5件と書いてあるが、5件の中でも、やっぱり精神病棟の経験のない看護師さんが40何時間の研修を受けて行く場合と、何年も、十何年病棟で精神科の患者さんに関わった人が訪問看護に行く場合とで、結構対応の仕方も変わり、細かいお薬の、合っているのかとか、副作用が強く出ているとかというところが、見えないところもあるので、そこは看護部会のほうではできれば統一できればと思っている。先ほどから出ている情報の共有、情報交換、入院時から退院に向けての情報交換の部分でいうと、本当に一番大事なところだと思うし、支援体制を整える意味でも情報を多くとったほうがいいかなと思う。医療介護のほうで入退院支援部会の会長をやっているが、そこでさえも情報をどうやってとればいいのか、という段階である。今後は精神のほうも退院に向けての、入退院に関するところも視野に入れながら聞いていきたいと思う。

あとは、現場で困っていることと、あと市として困っているところとかも上げてもらって、それを合わせられたらなんて思いました。例えば、市で困っているケースだったり、夜中の対応だったり、土日の対応だったりというところで困ったことがあれば、そういうのも上げてもらえればいいかなと。

◎会長 看護師もそう、就労系もそうだが、今その事業全体が三障害一元化というところで、それまで精神の方にあまり関わったことない方の困り事というの、もしかしたらあるかなと思っている。

あと、夜間帯とか土・日・休日のことですね。その辺が少し具体的に質問項目に落としていけたらいいなと思う。

◎委員 今の委員の話に乗る形だが、私も、この数字を今回出させていただいて、割と小金井市の数字が悪くないということを改めて分かった。一方で、今、委員から訪問看護の話もあったが、私たちもその訪問看護をお願いすることというのが結構ある。言葉はあまりよくない



が、大変な方をお願いしようというときに、委員の事業所は本当にいろんな方を受けていただいている。一方で、この5に入っている違うところをお願いすると、うちの事業所で言われたことがあるのは、「うちの訪問看護ステーションは難しい方はちょっと遠慮しています。」というようなステーションが、やっぱり数には入っているというのが現状なのかなと。

これは訪看だけではなくて、例えば居宅介護も100人当たり2.44ってそんなに悪くないのかな、市部平均等と比較してもそうだが。障害のほうで居宅介護の指定をとっている事業所も、「精神の方はお受けできない。」と言われるようなことは、本当に日常茶飯事である。短期入所も、数字はそんなに悪くないのかな、3か所とあるが、実際、私たちが結構お願いしているのは小金井市より数字が悪い府中だったりとか三鷹だったりとか、そういうところをお願いすることが本当に多くて。指定はとっているけれど、なかなか受け入れる体制が各事業所のほうで整っていなかったり、それまでのエピソード、困難な方に対しての支援でなかなかちょっと精神の方を受けするのはというところが実際あるのも確かかなというところはある。

今回、アンケートということで、私は個人的には、いかに率直に、何が大変で、どういう理由が、どういうことがこれまであって、受入れがなかなか難しいのだとか、どういうことで大変だったのか、現状、今、手を焼いているというかどう支援をしていいか分からないということ、率直に語ってもらえるかというのが大事なかなとは思っていて、それはどういうふうに語ってもらうかというのを、皆さんでアイデアを出せばいいのかなと思っている。

◎会長 どうしたら精神の方も受け入れてくださるのかとか、実際にどんなところが難しいと感じているのかとか、過去に困ってしまってもうこれ以降受け入れられなくなってしまったとか、そういうエピソードも含めて具体的に率直に答えていただく。どういうふうに質問項目をつくっていくと、もしかしたら、何かこうインタビュー的な感じのほうの方がより情報を得られるのかなと思いつながりながら聞いていた。

◎委員 私のほうでも、今、皆さんのお話を聞きながらいろいろ考えてはいたが、そもそも就労支援センターが支援している人は長期で入院されていた方たちではないので、実際に支援に携わられている方々はどんなところで困っていらっしゃるのかなというのがあまり見えないところである。先ほど、事務局から例があげられていたと思うが、就労に繋げるためにも、地域移行で実際に支援をしているところが、率直にどこに課題を感じているか、支援をするに当たって大変なことは何かみたいなどころから、いろいろな質問を出していけるといいと思う。

◎会長 もしかしたら、もっとこうしたら就労支援のほうにもつなが

っていくかもしれないというような情報ももらえるかと感じた。

◎委員 入院から退院するにあたって、家族のサポートを受けられないとか受けたくないとか、その方によっていろいろな状況があると思う。質問を考えるにあたって、やはりそういう方がいたときにどういうふうな手順を経たか、どのような関係者がいて退院ができたとか、そういういい事例があったら、ぜひ教えてほしいと思った。

◎会長 家族のサポートが得られない方など、少し困難かなと思われるような方々でどういうふうに退院されたかという好事例ということですね。

◎委員 私も、先ほどからお話にあるように、事業者は数があるが、やっぱり困難ケースに対していろいろトラブルがあると敬遠されることが多く、引き受けてもらえなくてすごく困ることが多い。我々も正直にしっかり伝えなければいけないところもあって、トラブルになったその具体的な内容とか、どうしたら受けられるかなというような具体的なところを聞いて、改善していけたらいいのかなと思う。受入先がなくて困っているケースが今もあり、私も相談したいところである。

◎会長 受け入れられないだけでなく、受け入れてもらえなくて困っているというような事例も含めてあるといいのかと思う。具体的にはどんなトラブルがあったのかということですね。なので、好事例だけではなくて、トラブルや、どうしたら受けてもらえるかというも。

◎委員 今回は地域生活における課題についてというところで、いろんな事業所にアンケートを取るのには、やっぱりすごく今後地域で精神疾患のある人、障害のある人を受け入れていくかという意味では、すごく意義のあるアンケートだと思う。

実際、やっぱり最初はいろんな事業所が関わってやっていたケースでも、どんどん、「うちでは無理です。」と言って関わる人が減ってくる場合とかが結構あって、そうすると、残った事業所でいかに支えるかとなり困るケースが結構ある。最初は受けていたけれども、どんな理由があって「うちでは無理です。」となったのか、本当に率直な意見を聞けると今後にもつながるのかなと思った。

あとは、困難な理由ってすごくたくさんあると思うが、例えば権利擁護センターだったら金銭管理のところだとか、あとは住まい、近所の方とのトラブルがあるとか、アパートを出ていってくれと言われたとか、なかなか病院につながらないとか、家族関係がいろいろあるので、具体的にアンケートをどう取るかというところでは、項目を上げてまずは選択式にして、そのあと具体的に書ける事例があれば記述式に落としていくみたいところで、より具体的な結果が出るようになったらいいのかなと思う。

あとはまあ、大変なところばかり聞いていくと、やっぱり大変だな

という気持ちがすごく強くなるかなと思うので、これだけ大変なのだけ  
けど、こういうふうにやった結果、うまく地域で生活しているという  
ところも、両方聞けたらいいアンケートになるかなと思う。

◎会長 先ほど、受け入れられないとかというところあったが、最初  
受け入れたのだけでも、どんどん困難になって最終的には受け入れら  
れなくなったというような事例も含みというところかなと話を伺って  
いて、いかに具体的に意見をもらえるかというところですね。それか  
ら、やっぱりその好事例というところかなと、大変だったけども、今、  
地域で安定して過ごされているという方も含めというところ。個人情  
報に配慮しながら、いかに具体的なところを聞けるかというところが  
一つポイントかなと。

◎委員 大体皆にもう既に意見を言っていたので、特に付け加  
えることはないが、多分困難な事例というのは、一つ一つ、その方の  
病歴もだが、性格とか持って生まれたものなどもかなり大きく影  
響してくるのではないかと個人的には思う。なので、本当にそれぞれ  
違うと思う。事例を出してもらって、Aの方、Bの方、Cの方、同じ  
何々病という病名がついても多分状態はそれぞれ違うので、やっぱり  
具体的なものが必要になってくると思う。

それから、今、他の委員が言ってくださったように、うまくいった  
場合のこともぜひ知りたい。そこにきっとすごく、偶然が重なってう  
まくいった場合もあるかもしれないが、そこに何か今後のよりよい社  
会を築くための秘訣が何かあるのじゃないかなと感じている。

◎会長 本当に個性がある中でいかに全体的に必要とされているこ  
とが浮かび上がってくるといいんじゃないかなというところと、また  
好事例というところで意見をいただいた。

◎委員 市役所だと、かなり事業所のほうにアンケートを取っている  
ケースというのはいろいろあるので、そういったものも活用させてい  
くというところと、かなりボリュームが大きくなると、やはり今後議  
論していくところがぼけるケースとかもいろいろあるかなと思う。限  
られたところで負担のないようにという面もあるので、そういったも  
のも含めて、事務局のほうと調整をさせていただきたいと思う。

◎会長 これまでのデータの2次利用であるとか、参考にできるよう  
な、今日示された資料も、結構今意見を聞いていると、数は少なく  
なくても、やはり実際に受け入れてくれる方とか専門職の方の体制とい  
うところか、そういうところにやはり困難さがあるのではないかとい  
う話もあったので、こういった何か、今後、資料とか今までの調査結  
果であるとか、そういったこともぜひ活用できたらなと話を伺って思  
った。

本当に、日々いろんな調査、アンケートでまたかと思われても困る  
ので、負担のないところでいかに貴重な情報をいただくかというところ

ろ、事務局のほうで、次回、11月に案を出すとのことなので、ぜひそのときにまた意見を頂戴したい。

今、全員一回りさせていただきましたけれども、お互いに意見、質問はよろしいか。

では、いただいた意見を基に事務局で案をつくっていき、次回協議の内容とさせていただきます。

それから、今後のスケジュールについて、事務局のほうから説明を。

◎事務局 7月中旬ぐらいまでに意見を寄せてもらえれば、それを含めてたたき台に反映させていただき、9月ごろを目処に我々のほうでたたき台を改めてお送りします。それを踏まえてまた意見いただいて、その意見も踏まえた形の修正案を最終的に11月に協議会に諮りたいというような流れを考えている。

◎会長 以上であらかじめ次第に記載された議題は終了したが、事務局からほかに何かあるか。

◎事務局 この場を借りて部会の運営について御報告させていただく。

委員のほうから部会があるのかという質問だったが、要綱でこちらの協議会を運営させていただいており、部会というものを規定して運営している。部会の構成員は、我々事務局と、委員名簿の6号委員から10号委員で部会を構成して、去年は年4回やっている。協議会の開催されない月に予定を入れて開催しているというのが去年の現状。

提案された事例、困難な事例を議論している。例えば委員から出された事例で、市のほうで何ができるか、どこに相談したらいいという話をし、課題の解決を図るような運営をしている。今年度もそれを行っていきたいと現段階で考えている。

また部会のほうには関係団体の方や関係者の方を呼べる規定があり、今年度は、精神障害のある方の家族会の方を呼び、意見交換を行う予定。その会は対面でやろうかと考えている。詳細に関しては、連絡させていただく。10月開催を目標としている。

部会以外の協議会については、その後に行われる協議会で報告し、必要に応じて議題として取り上げ、助言いただければ市のほうで受け止めたい。次回が6月、次が8月、10月、一応12月か1月。詳細はまた関係の方に連絡する。

◎会長 そのほか、意見、質問等、いかがか。

特にないようでしたら、以上で終了させていただく。

最後に次回の開催日について、事務局より。

◎事務局 次回の開催は11月を予定している。今のところ、場所が確保できているのが11月13日の月曜日と11月27日月曜日。今日この場で協議していただき、いずれもかなわないようであれば、事務局のほうで調整の上、決まり次第連絡したい。

	<p>◎会長 11月13日もしくは27日の14時からということにだが、現時点で都合が悪い方はいるか。13日もしくは27日の月曜日の14時から最長で2時間。ご希望はいかがか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>事務局としてはどちらがよいか。</p> <p>◎事務局 27日。</p> <p>◎会長 では、11月27日の月曜日14時から、場所はどこか。</p> <p>◎事務局 場所は市役所第2庁舎801会議室のほうで予定しており、また詳細に関しては通知する。</p> <p>◎会長 以上で令和5年度の第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会を閉会する。</p>
提出資料	<p>次第</p> <p>資料1 小金井市精神保健福祉連絡協議会 委員名簿</p> <p>資料2 東京都市部 障害福祉サービス提供事業所の現況について</p>